

## 平成29年度事業計画(案)

### 1. 基本方針

日本包装学会では、平成29年度も引き続き「包装学の深化と体系化、社会の要請に応えうる開かれた学会づくり、包装分野を担う次世代人材の育成、国際化の推進」を主な柱に、事業を展開したいと思います。具体的事業としては、会員相互の研究情報の交換・啓発のための研究発表会、国際包装セミナー(IPS)、シンポジウム、各種研究会等の開催、並びに学会誌「日本包装学会誌」の刊行を行います。また、これらの日標を実現するために、以下の方針を立てます。

#### 「産官学各分野の均衡ある活動促進」

大学等の包装関連研究領域の研究者あるいは学生の学会への関心を高めるとともに、学会の運営においても「学」の立場からの意見をこれまで以上に取り入れることができるように配慮していきたいと思います。また、企業等の研究者に対しては、研究成果を科学としてまとめて発信してもらえよう、「場」の構築について努力を継続します。

#### 「学生や若手研究者・技術者に魅力ある学会へへ」

若手研究者、技術者、学生会員のために、学会発表での各種優遇、表彰を引き続き充実させます。また、「若手の会」を通じた会員相互の交流の促進を図るとともに、若手の学会運営への参画の機会を増やします。

#### 「国際化の推進」

学際化、国際化の推進のために、IPSを国際的な研究・技術交流の場の中核と位置づけ、IPSを活用することで国際交流活動を更に活発化させます。また、日本包装学会誌への、「海外情報」の掲載をタイムリーに行うとともに、海外からの投稿を積極的に呼びかけます。

### 2. 学会の運営計画

#### 2-1. 第26回通常総会

- ・ 日時:平成29年7月12日(水)
- ・ 場所:東京大学 弥生講堂

#### 2-2. 理事会

平成29年度は、3回(うち1回は年次大会時)の開催とする。

#### 2-3. 会長補佐会議

理事会同様、3回開催の予定とする。ただし、緊急性の高い審議事項のある場合は、メール審議を含めて臨時に開催するものとする。

### 3. 各委員会の活動計画

#### 3-1. 編集委員会

- ・ 昨年度に引き続き、「日本包装学会誌」を6回発刊する。
- ・ 各号で編集責任者を決め、特集を企画する。
- ・ 「巻頭言」、「新包装基礎講座」、「総説」等を連載する。
- ・ 論文投稿を学会内外へ広く呼びかける。

- ・ 委員会開催 6回開催予定

#### [長期活動方針]

論文投稿を学会内外へ広く呼びかける。

#### [他委員会との連携]

大会運営委員会と連携し、年次大会での優秀発表に対し、特に積極的に投稿を呼びかけたい。

### 3-2. 企画委員会

シンポジウムを3回開催する。

- ・ 平成29年6月30日 第73回:「包装における副資材の役割と機能(5題)」
- ・ 平成28年11月2日 第74回:「(仮)医薬品包装について(4、5題)」
- ・ 平成30年2月予定 第75回:「未定(4、5題)」

また、各シンポジウムの企画および状況に関する確認と委員間の意思統一を図るため、企画委員会を4回開催する(第120～123回)。平成29年6月1日10月予定、12月予定、および平成29年2月予定(H30年度向け)。

#### [長期活動方針]

ここ数年黒字傾向にあり、この状況を維持あるいは拡大できる様、魅力ある企画を立案する。

#### [他委員会との連携]

シンポジウムの講演者に解説記事を依頼するなど、編集委員会との連携が想定できる。

### 3-3. 研究委員会

4つの研究会にて下記の活動を計画している。

- ・ バリア材料研究会 第23回バリア材料研究会を開催予定である。
- ・ 輸送包装研究会 輸送包装ディスカッションを9月22日に京セラD. S. (大阪、玉造駅)にて開催予定。
- ・ 包装とIoT研究会 研究会を平成29年5月29日、東京海洋大学にて開催。
  - ① 講演(東京海洋大学 渡辺大輔先生「包装とIoT 現状と今後」(30分))
  - ② 参加者のフリーディスカッション(企業、大学のニーズ・シーズマッチング、研究会活動について)
  - ③ 有志懇親会を予定。
- ・ 若手の会 若手会員の日本包装学会誌への論文投稿を促進するために、平成29年7月11-12日に開催される第26回年次大会(東京大学)の期間中に第2回交流イベントとして解説講演「論文投稿のすすめ」を開催する。

#### [長期活動方針]

現在活動中の4つの研究会には今後も継続して活動していただく予定である。各研究会の活動を通じて、学会の活性化をめざす。各研究会の長期的活動方針は次のとおりである。

- ・ バリア材料研究会 米国、欧州、日本/アジアの各極にメンバーと拠点を持つ強みを生かした情報交換や人材交流。
- ・ 輸送包装研究会 輸送包装ディスカッションなどの情報交換や人材交流の場を提供。
- ・ 包装とIoT研究会 「情報ITネットワーク社会における包装」という切り口から、モノのインターネ

- ット、クラウドコンピューティングを含めて包装の新領域を開拓する技術者の支援をしていく。
- ・ 若手の会 学会の振興と学会誌への投稿数の増加につながる活動を継続して実施する。

#### [他委員会との連携]

若手の会と編集委員会の連携： 解説講演「論文投稿のすすめ」の効果、すなわち投稿数の変化について、後々編集委員会に確認を依頼したい。

### 3-4. 大会運営委員会

年次大会に向けた委員会活動予定

- ・ 第199回 平成29年4月11日 東京海洋大学
- ・ 第200回 平成29年6月13日 東京海洋大学
- ・ 会場準備 平成29年7月10日 東京大学
- ・ 大会1日目 平成29年7月11日 東京大学
- ・ 大会2日目 平成29年7月12日 東京大学

以降の日程詳細は未定(平成29年9月 アンケート集計まとめの予定)

第27回年次大会(来年度)開催地について

- ・ 東京大学にて実施予定(2018年7月11日(前日準備)、7月12日、13日)
- ・ 会場(仮予約済):弥生講堂(メイン会場)、アネックス(セイホクギャラリー:ポスター会場or第二会場)

### 3-5. 広報委員会

インターネット関連

費用削減の観点から本年度は定型のホームページ更新作業、メール配信作業に絞って活動することを原則とする。ただし、各委員会や補佐会議等で要望があった場合は、予算を別途申請することで柔軟に対応していく。

学会紹介パンフレットの更新

内容が古くなっているとの指摘を受けたため、英語版パンフレットの更新を実施する。

#### [長期活動方針]

ホームページの改善活動を中心に情報の発信を強化し、会員へのサービス提供と会員増強に継続して努めていく。

#### [他委員会との連携]

催物の情報発信をタイムリーに行う等で各委員会と連携し、広報活動を充実させていく。

### 3-6. 国際交流委員会

メール審議を主として、以下の活動を実施していく。

- ・ 「海外情報」の学会誌掲載
- ・ 韓国包装学会との交流継続
- ・ 海外の研究者から学会誌への投稿推進

### 3-7. 学会賞等選考委員会

年度末までに、学会賞、奨励賞、論文賞、功労賞について、授賞選考を行う。

### 3-8. 財務委員会

支出削減による収支バランスの健全化を図る。毎月の財務状況確認による健全な財務運営。各委員会活動を支援可能な予算の作成。

### 3-9. 総務委員会

総会、理事会、会長補佐会議の事務局として、効率的な学会運営を進める。学会活性化、財務健全化に向け、会長補佐会議、理事会での討議を進めていく。

以上